

柚木の

お不動さん

平成二年四月五日号

柚木の旧東海道沿いに、今でも手厚く信仰されているお不動さんがあります。今回は、このお不動さんのいわれを、柚木の福島清二^{せいじ}さんに伺いました。

お不動さんに移す

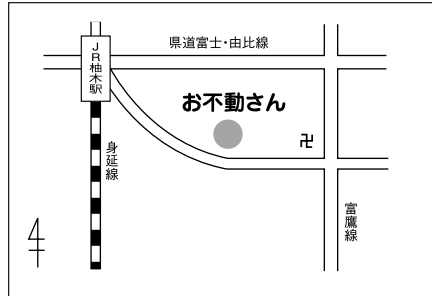
明治の終わりごろのことです。岩本に「ほうえんさん」という信心深い人がいました。「ほうえんさん」は古くから伝わるお不動さんを守っていた人で、お供の人と二人で小さい

おりに住んでいました。二人はあちこちの村を回っては、米や野菜などのお布施をいただいで、生活をしていました。

ところが、時代が大正になったころ、お不動さんのほころを移さなければならなくなりました。

信仰心の厚い人々

そんな話を耳にした柚木の住人福島太郎さんと伊藤政太郎さんは、相談して、お不動さんをもらい受けることにしました。二人が、東海道沿いにほころを建てて、丁重にお祭りすると、もともと信仰心の厚い近所の人もいつしかお参りするようになりました。



▶ お不動さん



地域の守り神

以来、毎月二十八日になると、今でも人が集まっては供養が続けられています(平成二年)。

厨子ずしに納まったお不動さんは、台座から光背まで高さが約五十センチ。光背の朱が鮮やかな塑像です。

福島さんは「私は平安時代の作じゃないかと思ってるよ。お不動さんは柚木の守り神で、みんなが手厚く信仰するようになってからは、東海道もこの辺じゃ大きな事故がないね。昔は、周りに井戸や火の見やぐらもあって、コミュニケーションの場所でもあったんじゃないかな。現在は区で管理をしているよ」と語ってくれました。

語ってくれた方

福島清二さん